



資源回収の収益金1千万円以上を寄附しました

## 狭山の元気 発見

**躍進**

いきいき狭山人  
ひと

第6回さいたま環境賞・県民大賞受賞  
自然を守る狭山リサイクルの会

「もったいない」という気持ちがある

未来の自然を守り続けたい

「MOTTAI NAII」…ノーベル平和賞を受賞したケニア副環境相のワンガリ・マータイさんが世界に広めたいと活動し、今改めて注目を浴びている言葉です。市内には、その言葉を合言葉に、17年も前から活動している団体があります。今年3月に、優れた環境保全活動に対して贈られる「さいたま環境賞」の「県民大賞」を受賞した「自然を守る狭山リサイクルの会」です。

自然を守る狭山リサイクルの会が設立されたのは、昭和62年の春。当時は公害問題などに注目が集まり、まだ現在のように環境問題に一人ひとりの関心は高くない、大量消費の時代でした。物がたくさん「ごみ」として捨てられていく中で、「もったいない」という気持ちを持った仲間が集まり、現在は46名が活動しています。

「もったいない」という気持ちがあるから、資源回収は、これまで月に2千トン以上もの古紙などを回収し、収益金を福祉基金や緑化基金に寄附しました。また、リサイクルマーケットへ参加したり、ごみ問題の啓発もしてきました。そして、緑豊かな平地林を守るうと、上赤坂の森クリーン活動で不法投棄ごみの撤去も行っていきます。ごみの集積所などをきれいにすることで、地域の住民もごみを捨てる時にきちんと分別する意識が生まれました。



県民大賞は12の団体や個人が受賞

こうして活動の輪が少しずつ、しかし確実に広がってきました。「私たちの活動は、誰にでもできることを続けてきただけです」と会の皆さんは言うものの、17年もの間、このような活動を継続するのは簡単ではありません。それを長い間、地道に続けられたのは、結成当時から活動をしてきた会員の強い信念があるからこそです。「決して大それたことをしようとは思っていません。できるだけ使えるものは捨てず、捨てるときでも、それがまた資源となるようにしたい」と思い、活動しています」と話す皆さんは、「もったいない」という気持ちを持ち続けてきました。そして、そのような共通の意識を持って活動を続けられるように、定期的に会報を発行して、それが会員みんなの方向性や考えを同じにすることにもつながっています。また、会員の皆さんは、回収する物をあえて「廃品・ごみ」とは呼ばず、「資源」と呼んでいます。それは、「ごみと呼ぶとただ捨てられるだけの存在に思えますが、きちんと処理することで実際は多くの物が再利用や資源としてよみがえるからです。ごみを減らすためには、ごみを出す人の一人ひとりの意識が大切ですよ」と語る代表の吉村さん。

未来の自然を守るために、もう一度、普段の生活を見直してみませんか。小さなことの積み重ねが、地球の自然を守ることにつながります。



鈴木喜代子さん  
(広瀬東在住)



毎年大勢で賑わう夏祭り

新狭山ハイツ自治会は、昭和48年に発足し、さまざまな活動をしています。中でも夏祭りは、ハイツを巣立っていった子ども達にとって懐かしいふるさとの思い出となっている行事です。

また、自治会活動で対応できない大きな問題はプロジェクトチームを作って対応します。そのチームの中には長く活動を続けているグループがあり、緑化推進本部 あおやぎ文庫、まるたの会、わくわく自然園、生ごみりサイクルの会、花水木、風見どりなど18のグループがあり、自治会をバックアップしています。また、NPO法人・グリーンオフィスやまを立ち上げ、現在活動中です。

## 高齢者の生きがい作りができるSSCC もっと広報紙などでPRしてほしい

私は会社を退職した後、何か打ち込めるものはないかと思っていたところ、SSCC(狭山シニア・コミュニティ・カレッジ)に出会いました。

しかし先日、知人にその話をすると、「SSCCとは何ですか? まったく知りません」という答えが返ってきて、とても驚きました。全国でも珍しいSS

CCは、定年を迎えた方や高齢者に学習をする場を与えてくれる素晴らしいシステムだと思えます。私は、学んだ1年間で新しい知識を得ただけでなく、多くの仲間もでき、大変実りある時間を過ごせました。しかし、まだこのシステムを知らない人がいるのは残念です。広報紙などでもっとPRをして、より多くの

皆さんにSSCCのことを知ってもらいたいと思います。

市の考え方  
貴重なご意見をいただきありがとうございます。

SSCCは6年めの今年、全8学科、401名の受講生を迎えて開講しました。広報紙では募集要項をはじめ、1年を通して、定期

的にSSCCの情報を掲載していきます。他の記事についても、内容をわかりやすく掲載するのはもちろん、皆さんの生きがいづくりなど、さまざまなきつかけづくりができるような紙面にしたいと考えています。これからもより一層工夫を重ねていきますので、ぜひ広報さやまをご覧ください。

担当 広報課

広報課に皆さんの声をお寄せください。必ず住所、氏名、電話番号をご記入ください。 ☎29546262代  
Eメール koho@city.sayama.saitama.jp

## A ssisutant L anguage T eacher



Victoria Chiang  
ビクトリア チャン  
(柏原中・広瀬小・新狭山小学校勤務)

香港出身  
平成17年から狭山市のALTとして勤務  
趣味はテレビゲームで遊ぶこと

Hello! My name is Victoria Chiang (Vicki) and I'm the new ALT for Kashiwabara Junior High and Hirose and Shinsayama elementary schools. I was born in Hong Kong and immigrated to Canada when I was a baby so I can speak Cantonese, but I speak English better! I grew up in Edmonton, Alberta and went to University in Vancouver, B.C. I've enjoyed living in Japan for more than 3 years, most of that in beautiful Matsue city in Shimane prefecture. In that time I've learned to love karaoke, sukiyaki and tsukemono but NOT natto! Everyone seems very kind here, and I'm looking forward to this year! Yoroshiku!

こんにちは。私は柏原中・広瀬小・新狭山小の新しい語学指導助手(ALT)のビクトリア・チャン(ビッキー)です。香港生まれで、赤ちゃんの時にカナダへ移住したので、広東語も話せますが英語の方が上手です。アルバータ州のエドモンドで育ち、バンクーバーの大学に行きました。日本には3年以上住んでいて、その大半を島根県の松江で過ごしました。そのときにカラオケやすき焼き、漬け物が好きになりましたが、いまだに納豆はダメです! 狭山の人々はみんなとても親切なので今年を楽しみにしています。よろしくね!(英文の要約)